令和年6度鳥取県学校農業クラブ連盟「農業後継者の集い」

7月 25日（木）～26日（金）の2日間、鳥取県立農業大学校で令和6年度鳥取県学校農業クラブ連盟「農業後継者の集い」が開催され、本校から2名、智頭農林高校から１名、倉農業高校から6名の生徒が参加しました。この事業は将来農業大学校を進学先に考えている学生を対象に、鳥取県学校農業クラブ連盟主催で開催しています。今年度も鳥取県立農業大学校のオープンキャンパスの日程に合わせ、初日の夕方まではオープンキャンパスの参加者と共に実習体験をし、夕方以降は鳥取県農業クラブ連盟が準備した研修に参加しました。初日の午前中はまず、野菜・花き・作物・果樹・畜産の各部門の見学と、施設内の各教室や寮の見学をさせていただきました。

午後からは農業大学校で昼食をとり、各部門で体験実習を行いました。

ミニトマトの収穫

ミニトマトの調整

ブドウの調整作業

農業大学校で集合写真

オープンキャンパスが終了した夕方からは、各学校の卒業生である農大生との交流会を行いました。農大の寮生活や学校のこと、農大を選んだ理由、農大卒業後の進路のことなど、たくさんのお話を聞くことができ、１日目の研修が終了しました。

２日目は農業大学校で閉所式を済ませた後農大から移動し、スイカの選果場の視察研修を行いました。残念ながらスイカの時期はタイミング悪く終わってしまっていましたが、スイカを選果する際に使用する機器やライン等の見学をすることができました。次に二つ目の視察先である、北栄町の花卉農家の見学を行いました。大学では経済学を専攻し、卒業後は家電等の販売の仕事をした後に農大へ行き、農業の道へと進まれた経歴を持つ経営者のお話は、これから就農しようと考えている生徒達にとって、大変貴重なお話だったのではないでしょうか。

農業は「情報を収集すること」と「発信すること」この２つがとても大切であるという言葉が心に残りました。

スイカの選果場での視察研修

研修先で話を聞く生徒

２日間の研修を終え、就農したい気持ちがよりいっそう高まった生徒や、自身の適性や進路についてもう一度深く考えなおすきっかけになった生徒もいました。「農業後継者の集い」の目標を達成することができた研修になったのではないかと思います。また来年も開催しますので、今回参加できなかった生徒にも是非とも参加して欲しいと思います。